

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年7月28日（火）

2 確認箇所

覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）（図1）

3 確認項目

覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況

4 確認結果の概要

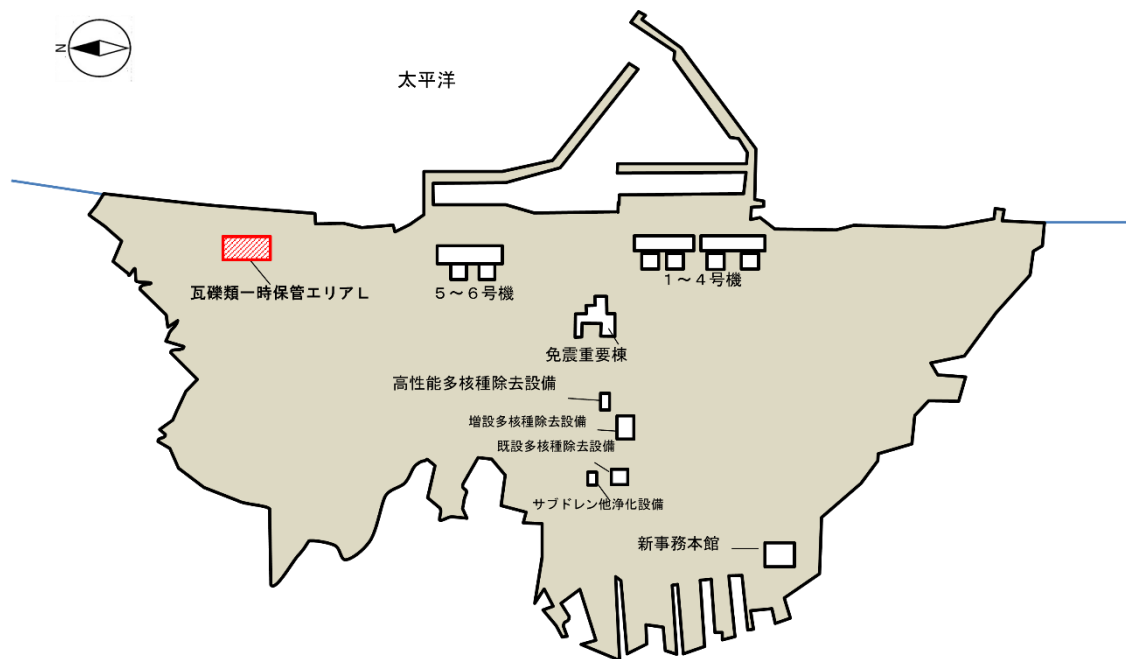
東京電力では、中長期ロードマップの目標工程である「2028年度内までに、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外での保管を解消」を達成するため、屋外で一時保管されている瓦礫類等の固体廃棄物を屋内保管へ移行し、屋外一時保管エリアの解消作業を進めている。それに向けた取組の一環として、屋外の覆土式一時保管施設^{※1}（瓦礫類一時保管エリアL）に一時保管された瓦礫類を取り出し、金属容器へ収納した後、固体廃棄物貯蔵庫での屋内保管を計画している。

当該エリア内には、第1槽から第4槽までの計4つの一時保管槽が設置されており、今回、瓦礫類の保管状況や第4層で実施している取り出し作業の状況を確認した。（前回確認：[令和8年5月14日](#)）

- ・第4槽を覆うハウス^{※2}の内部を確認したところ、瓦礫類はすべて撤去されており、ハウス内の片付け等の作業が実施されていた。（写真1）
- ・車両の搬出口として利用されている小テントへの雨水流入を防ぐため、新たにU字溝の設置作業が行われていた。（写真2）
- ・エリア周辺の空間線量率を測定したところ、周辺環境に影響を及ぼすような高い指示値を示す箇所は確認されなかった。（写真3）
- ・第4槽を覆うハウスに破損等の異常は認められなかった。また、瓦礫等が保管されている第1槽から第3槽についても、目視で確認した範囲において、シートの剥がれや瓦礫類の飛散・流出等の異常は認められなかった。
- ・エリア北側には、作業員が自由に利用可能な給水車が配置されていた。装備を外して入室することで、飲料水の補給やトイレ利用ができる労働環境が整えられていた。（写真4）

※1 覆土式一時保管施設：高線量（～30 mSv/h）の金属やコンクリート等の瓦礫類に覆土による放射線の遮へいを施して一時保管する施設。

※2 ハウス：第4槽からの瓦礫類の取り出し作業における放射性物質の飛散を抑制するために設置されている。



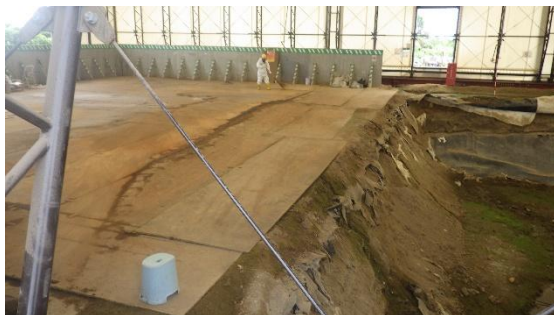
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1－1) 瓦礫類一時保管エリアの状況



(写真1－2) 第4槽を覆うハウスの内部の状況



(写真1－3) ハウス内の片付け作業の状況



(写真2－1) U字溝設置作業の状況
①



(写真 2 - 2) U字溝設置作業の状況
②



(写真 3 - 1) 空間線量率の測定状況
①



(写真 3 - 2) 空間線量率の測定状況
②



(写真 4) 給水車の配備状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。